

◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載 ◆ 第14回/パリ滞在時「受領証綴」調査報告(その2)

Residence of Prince Asaka 1933—



エッフェル塔の下でたたずまれる妃殿下(右)。襟に毛皮をあしらった、くるぶし丈のコート。袖口はスラッシュの入ったデザイン。遠くに見える建物はトロカデロ宮殿(現存せず)。隣は杉岡侍女。お供の人々や運転手、家政婦ら使用人の衣服も費用を掛けて整えられた。

受領証綴のうち、服飾に関連した領収証から朝香宮両殿下の「装い」を読み解くことができます*1。

1922年、パリに到着された鳩彦殿下は、すぐにテーラー・ヴォワザン(J.Voisin)で背広、チョッキ、ズボンのセットを800フランで購入されました*2。在仏中数回に及んだ渡英の折には、紳士服の本場ロンドンのボンド・ストリートのヴィッカー商会(Mc.Vicker & Co.)で、ラウンジ・スーツ、イブニングドレス・コート、ウーステッドやアンゴラのコートなどを購入、その趣味みなセンスが伺えます。また小物に注目すると、殿下はお顔を引き立たせる白い襟を数多く発注されており、シャツの専門店シュルカ(A.Sulka & Co.)では、ハンカチやシャツに必ずといっていいほど、ご自身のイニシャル「YA」の組み文字を刺繍させるなど、細かいこだわりが感じられます。またニッカー・ポッカー*3の他にも、オーダーメイドの靴店コキュヨ(G.Coquillot)の乗馬用ブーツや、エルメス(Hermès)の鞭といったスポーツ用品関連の購入記録が目につきます。

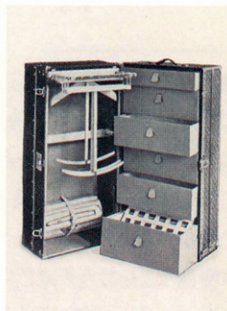
1923年4月に事故の知らせを聞いた允子妃殿下は6月にパリへ到着。早々に毛皮と帽子、そして靴を購入されました。明治天皇の第八皇女と

いうご身分を考えれば、まず装いを整えられるのが当然の事だったのでしょう。オートクチュールの元祖ウォルト(Worth)*4、シンプルでエレガントなデザインが人気だったジェニー(Jenny)*5、今も残るランバン(Jeanne Lanvin)*6で注文をなされています。色は白、黒、ブルーといったシックなもの、素材はジョーゼットやペロアなど柔らかな、時代の流行に沿ったものが多かったようです。ワンピースなどの普段着は、値段を抑えた店で購入されました。

ブランタン(Printemps)やボン・マルシェ(Bon Marché)といった百貨店では、妃殿下の「お手許金」で、傘や帽子などのお買い物を楽しまれていたようです*7。化粧品はクリームをゲラン(Guerlain)で、コティ(Coty)でジャスミンエッセンスを求められています。宝飾店のバンスラン(Bancelin)ではお手持ちの宝石を、ティアラ*8やブレスレットにアレンジされました。宝石には高額な保険も掛けられていました。

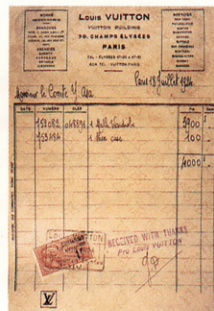
両殿下の高雅な生活を彩る「装い」の他にも、靴や鞆、時計の修理、服のプレスといったケアに関連する領収証も「受領証綴」には残されており、そこからお二人の秩序だった生活のご様子を伺うことができます。

(青木淳子/東横学園女子短期大学非常勤講師) ◆



左:1925年当時のルイ・ヴィトン社製ワードローブ・トランクのひとつ。個々に受注生産されていた。「フランス応用装飾芸術」誌(Revue française des Arts Décoratifs Appliqués, juillet 1925)より

◎ARCHIVES LOUIS VUITTON



右:ワードローブ・トランクと靴ケースの明細が入ったルイ・ヴィトン社の領収証。モノグラム透かしが見える。支払い額は1924年7月18日。4日後の22日、殿下一行は中欧旅行へ出発された。

*2002年より実施された資料調査に基づき、青木淳子氏による調査報告を連載中です。(全3回)



パリ滞在中の鳩彦殿下。『皇族画報』、1925(大正14)年5月号より。アシェット婦人画報社蔵

*1.朝香宮両殿下が1922(大正11)年から25(大正14)年までパリに滞在された折の領収証が「受領証綴」(全39冊)として庭園美術館に保管されている。

*2.当時の1円が約7フランに相当。大卒男子の初任給は約70円。

*3.前号掲載の写真を参照。殿下は自動車の前で、ニッカー・ポッカーにシングルのジャケット、ハンチング帽と軽快な服装。妃殿下も20年代ファッションのスポーツ的な傾向を反映して、少し短めのスカート丈に、当時の乗車時の装いは定番のスカートというのでたち。

*4.1857年、英国人のチャールズ・フレデリック・ワース(Charles Frederic Worth, 1825-95)がパリに開いたメゾンが、オートクチュール・システムの基盤になったとされる。

*5.ジャンヌ・アデル・ベルナル(Jeanne Adel Bernard, 1872-1962)、通称ジェニーのメゾン。妃殿下にはシモヌという担当者が付き、支払いもまとめて行われていたことから、顧客でいらしたことがわかる。当時ジェニーの店舗は、ルイ・ヴィトンのジャンゼリゼ店と同じビルにあった。

*6.ジャンヌ・ランバン(1867-1946)が1888年に帽子店を開業。後にオートクチュール・メゾンへと発展した。

*7.「妃殿下お手許金」という支出のメモがあり、身の回りの品を自由に購入されていた様子が見える。

*8.「旧朝香宮邸のアル・デコ」展(1996年)で公開された「朝香宮允子妃殿下着用ティアラ」がこれに該当すると推測される。領収証には仕様やデザインが詳述されている。